

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 11 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20401031

研究課題名 (和文) 中国の初期仏教寺院とその源流にかんする考古学的研究

研究課題名 (英文) Archaeological Study on the Origins of Early Chinese Buddhist Temples

研究代表者

岡村 秀典 (OKAMURA HIDENORI)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：20183246

研究分野：中国考古学

科研費の分科・細目：考古学

キーワード：仏教文化、中国、魏晋南北朝、シルクロード

1. 研究計画の概要

仏教の東伝をめぐって、これまで経典や仏像の伝播はさかんに論じられているが、仏教実践の場としての寺院については、ほとんど議論されることはなかった。そこで本研究は、京都大学人文科学研究所 (以下、人文研と略す) が雲岡石窟とガンダーラ寺院址について実施してきた 70 年にわたる考古学調査の成果をふまえ、考古学の方法によって中国における仏教寺院の成立とその源流を探ろうとするものである。

2. 研究の進捗状況

(1) 塑像出土寺院の調査と研究。人文研に所蔵するガンダーラのタレリ・メハサンダ両寺院址出土の仏教造像 600 点あまりを整理し、とくに 4～5 世紀のストッコの塑像について製作技法と寺院での使用法を検討した。これをふまえ、480 年ごろに北魏の文明太后が造営した山西省大同方山思遠寺址・遼寧省朝陽思燕寺遺址、および瓦の様式から 490 年代に創建されたと推定する内蒙古包頭懷朔鎮寺院址の塑像を調査し、相互の比較、ガンダーラとの関係、寺院における仏教造像の配置、ストウパでの儀礼などについて検討した。なお、北魏平城期の出土塑像については、すべての調査を完了した。

(2) 舍利文物の調査と研究。481 年に北魏孝文帝が造営した河北省定州塔の舍利石函から出土したサーサーン銀貨 41 枚をふくむ金・銀・銅・ガラス製品など 200 点あまりの文物を調査した。①インド・ガンダーラと中国とで品目を比較し、舎利の埋納儀礼を相互に検討した。②銅器の蛍光 X 線分析をおこない、仏教経典にいう「鍮石」にあたる銅・亜鉛合金の黄銅製品を発見し、また、正倉院の

佐波理に相当する響銅の銅碗・匙を発見し、仏教の東伝にともなってそうした技術が中国に伝わったことを明らかにした。③ガラス製品を蛍光 X 線分析し、それが宙吹き技法によること、西アジアに由来する材質であることなどを明らかにした。そのうえで『魏書』西域伝の大月氏国条にみえるガラス制作技術の記事と照らしあわせて検討した。

(3) 南朝青銅器の調査と研究。上記の調査の過程で、北魏の仏教文化には、シルクロードを通じた文物や技術の伝来のほかに、南朝からの影響が強くあらわれていることが明らかになった。そこで仏具の青銅器に焦点をあて、南京周辺の 5～6 世紀の一括青銅器を調査し、北朝のそれと比較検討をおこなった。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

(理由) 計画では中国の初期仏教寺院とそれに付属する瓦や塑像などの調査を対象としたが、それらはすべて達成され、新たに舍利荘嚴具や仏具の金属器・ガラス器をふくめた仏教文化全体を対象をひろげて研究を進めている。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 南北朝期の銅器研究。とくに響銅や鍮石など仏教にともなう外来的技術とその製品について、蛍光 X 線による成分分析とあわせて検討する。

(2) ガラス器の研究。銅器と同様であるが、とくに人文研に所蔵するイラン収集のガラス器 60 点あまりの整理と研究について岡山市立オリエント美術館と学術協定を締結 (2011 年 2 月) したので、東西交流を主眼とする研究を進める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

- ① 韓立森、朱岩石、岡村秀典、廣川守、向井佑介、河北省定州北魏石函出土文物考察与研究、考古学集刊、18、2011年(印刷中)、査読有
- ② 譚士俊、姜濤、岡村秀典、向井佑介、北魏懷朔鎮佛寺遺址研究、内蒙古文物考古、2、2011年(印刷中)、査読有
- ③ 岡村秀典、向井佑介、北魏方山永固陵研究、日本東方学、2、2011年(印刷中)、査読有
- ④ 岡村秀典、漢鏡5期における淮派の成立、東方学報、85、732-762、2010年、査読有
- ⑤ 向井佑介、北魏平城時代における墓制の変容、東方学報、85、133-176、2010年、査読有

〔学会発表〕(計 2件)

- ① 向井佑介、東アジアの文字瓦、古代における東西の銭と文字瓦 シンポジウム、2010.12.18、国士舘大学
- ② 岡村秀典、中国のはじまり、洛陽学国際シンポジウム、2010.11.27、明治大学

〔図書〕(計 7件)

- ① Michael Alram, Deborah Klimburg-Salter, Minoru Inaba, Matthias Phisterer (eds.), Austrian Academy of Science, *Coins, Art and Chronology II :The First Millennium C.E. in the Indo-Iranian Borderlands*, 2010, 総470頁
- ② 吉川忠夫、船山徹 訳、岩波書店、慧皎著高僧伝(一)～(四)、2009年～2010年、総1742頁
- ③ 岡村秀典、下垣仁志、向井佑介 編、臨川書店、シルクロード発掘70年—雲岡石窟からガンダーラまで、2008年、総103頁
- ④ 船山徹、宗教情報センター、涅槃経の来た道—曇無讖伝を読む、2008年、総79頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

〔その他〕

人文研が所蔵する雲岡石窟関係の写真資料を整理し、その報告書である水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全33冊のPDFを京都大学リポジトリに公開した。

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/d>

[space/handle/2433/139069](http://space.handle/2433/139069)

また、人文研が所蔵し、本研究で整理した雲岡石窟(1938年)や響堂山石窟・龍門石窟(1936年)の16ミリフィルムを京都大学研究資源アーカイブに公開した。

<http://das.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/info/lib/supsearch/MetSearch.cgi>